

ここが聞きたい！

代表質問

代表質問とは…

市のさまざまな課題等について、議員が市長や理事者に考えを聞くものです。12月定例会において、3人以上の会派が質問できます。



※ 新型コロナウイルス感染予防のため、時間を45分に制限して実施しました。



志清同友会

かえりやま

あきお

帰山 明朗 議員

3回目コロナワクチン接種の前倒しを！

問 3回目接種について政府は原則8か月以上の間隔を空けるとの方針だが、懸念されるオミクロン株のこともあり、8か月を待たず可能な限り早めに、重症化リスクの高い高齢者などから前倒してやるべき。追加接種の加速は、市民の命を守るとともに社会生活をも守ることであり、最大の経済対策でもある。市は速やかな3回目接種に取り組むべきではないか。

答 市としては国の方針を踏まえ、県や市医師会と連携協議しながら、できるだけ速やかに安全・安心な接種体制を確保できるよう努めていく。

問 公共施設の老朽化による市財政への影響、および財政規律の維持についての考えは。

答 今年度中に改定予定の公共施設等総合管理計画案においては、今後40年間の建物の維持補修費、施設整備費は、適切な予防保全を実施した場合でも年平均21億5,000万円程度の支出が見込まれ、これにインフラ施設の維持補修費・施設整備費も加えると年平均42億6,000万円という多額の支出が見込まれる。これらに対応するためには、効率的な施設の改修や施設の統廃合に向けた議論はもちろん、臨時財政対策債を除き、毎年17億円前後で推移している市債の借り入れ額も今後の起債償還額の平準化を踏まえて、償還可能な額の最大値を設定することが必要である。また、これまで同様に交付税措置のある優良地方債を優先的に借りる工夫をすること、今後の大規模改修に向けて計画的に基金を積むこと、さらには予算の効率化による徹底した歳出抑制やふるさと納税等による自主財源の確保など、財政的措置が不可欠であると認識している。

また、財政規律の維持については、今後見込まれる維持補修費、施設整備費の増大を背景に、本市の実質的公債比率や将来負担比率は大きく悪化していくことが予想されるため、国が設定する早期財政健全化段階を判断する指標を上回らない範囲で、財政健全化判断比率の目標値を見直すことが必要になっていくと考えている。



市民創世会

きむら

あいこ

木村 愛子 議員

市長の政治姿勢は

問 鯖江市の中長期的なビジョンは。

答 市長 世界の眼鏡の聖地鯖江の確立、これをコンセプトに、眼鏡や繊維、漆器などの地場産業を中心としたものづくりはもとより、これらの産業を支えてきた女性の活躍や市民力に支えられている市民協働、さらに、歴史、伝統、文化、自然環境など、鯖江市固有の地域資源に磨きをかけ、世界に向けて、その魅力を発信し続ける効果によって、多様な人々や企業が集まり、経済、社会、環境の好循環が生まれる持続可能なまちの確立を目指す。

問 越前市との連携は。

答 市長 越前市との相互連携は非常に重要。山田賢一市長とは今まで以上に意見交換を重ね、産業振興や丹南のまちづくり活性化に努めたい。

暮らしやすいまちづくり

問 不登校の現状と対応は。

答 教育長 令和2年度の市内不登校児童・生徒数は96人。市の適応訓練支援教室「チャイルドセンター」には、令和3年10月時点で49人が在籍している。不登校の要因・背景が複雑多様化する中、知識や経験を有する人材を配置するなどの機能強化を検討している。関係機関が連携し、子どもや保護者を支える重層的な支援体制の充実に努めている。

その他の質問

○福祉・子育て・教育施策など、令和4年度の予算編成は

○公共施設等総合管理計画について

○コロナ対策としての個人事業者や人への支援は

○引きこもりの現状と対応について

○障がいのある人の自立支援等について

○ユニバーサルデザインの視点から見た居場所づくりと今後の対応について



漆器産地の視察風景